

令和6年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標Ⅲ 【 職員の指導力強化 】

1 現状及び課題、並びに評価項目

現 状	課 題	評価項目（達成目標）
○当校の職員は日本農業実践学園や鯉淵学園農業栄養専門学校等の民間校と違い、行政機関や研究機関、農業関連高校から転入した職員が栽培指導、ほ場管理、学生指導を行っている。	○行政機関や研究機関から転入した職員が、学生指導などに苦慮しないよう、教育方法などを学ぶ機会を確保する。 ○農業関連高校から転入した職員が、最先端の技術や現場の状況などに触れ、栽培技術のスキルアップを図るための機会を設ける。	職員の資質向上機会の確保 職員研修参加回数 2回以上/人

2 評価項目別の評価及び次年度の課題等

職員の資質向上機会の確保				達成度の評価基準	
達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]	A	100%達成
職員研修参加回数 2回以上/人 【R5実績：3.4回/人】	A	職員の指導能力向上研修会開催により、教育方法や心構え等を学ぶ機会を設けることができた。また、農業技術の向上を図る各種研修会への参加を誘導した。 一人当たり3.75回の研修に参加し、目標達成率は100%である。	達成度の評価基準と照らし、A評価は適当である。	B	80～99%の達成
				C	60～79%の達成
				D	40～59%の達成
				E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
ア【継続】学生に対応する指導能力向上研修への参加 ・学生指導経験のない職員向けの学生指導研修を行う。 ・関東ブロック農業教育施設協議会などでの研修会等への参加を誘導する。 ・県内の民間専門学校2校と連携しながら研修会を主催する。 2人以上 【R5実績：6人】	ア 学生に対応する指導能力向上研修への参加 【取組実績】 ・学校校長経験者による「教員の心得」講義、高校教員初任者向け研修資料を活用した研修など、学生指導経験のない職員向けの学生指導研修を実施 ・関東ブロック農業教育施設協議会の研修会、ミライの農業をつくる指導者研修（農業大学校向け。農林水産省R6年度農業教育高度化事業）等へ参加 ・県内の民間専門学校と連携して学生募集や校外販売実習を行い、意見や情報交換を通じて互いの資質向上を図った。 6件、延べ30人 【成果】 ・指導能力向上の機会を確保することができた。	ア 学生に対応する指導能力向上研修への参加 ・引き続き、関東ブロック農業教育施設協議会が主催する学校運営に関する担当者研修会に参加し、積極的に他校の優良な取り組みを学び当校の学生指導に役立てていく。	・学生の心を引き付ける能力が必要ではないか。また、与えられた研修ではなく、職員が求める研修を模索することも大切である。 ・職員は、学生指導経験が少なくても講義は対応できると思われるが、栽培等の技術指導は難しい。 ・実技の指導はやはり難しい。農業技術は自分で実践しないと学生に教えることができない。
イ【継続】農業技術能力向上研修への参加 ・県主催専門研修、各種研究会主催研修、農作業安全・大型特殊免許取得研修などの研修に参加する。 1回以上/人 【R5実績：農業部1.8回/人、園芸部2.7回/人】	イ 農業技術能力向上研修への参加 【取組実績】 ・イチゴの有機栽培に関する研修（農研機構）、農作業安全に関する指導者育成研修、大型特殊免許取得研修などの研修に参加した。 21件、延べ45人 【成果】 ・職員が農業機械を使用した実習指導に対応できる資格や技能を獲得した。	イ 農業技術能力向上研修への参加 ・次年度も引き続き各種研修等への職員参加を呼びかけ、職員が学生指導に役立つ技能を確保できるよう努めていく。	